

和剣

和歌山県スポーツチャンバラ協会
〒641-0007 和歌山市小雑賀89
TEL 073-422-0308
FAX 073-427-6328

VOL. 55

2010年 3月 3日 第4期定時総会特集号

2月27日の総会へは石上、福森、由良、瀧本、柚岡（太）、安田が出席（他の理事及び監査は委任状を提出）。全役員のリ任決議を経て、2009年度の事業決算と事業結果を報告し、次いで2010年度の事業予算と事業計画を審議。主要な審議事項は下記のとおり。

①第7回和歌山大会は10月下旬から11月上旬の頃を目標に開催する。

日本スポーツチャンバラ協会本部及び他府県スポーツチャンバラ協会の大会や行事の日程との重複を避けながら、大会の開催方針・運営内容については独自の和歌山流を貫く。

②6月に段位審査会と審判講習会を実施する。

それぞれの役員は現有段位、現有審判資格より1ランク上位の段位の受審と、審判資格の受講に努める。役員各員の活動実績と心身の技量に相応しい段位と資格を取得することが目的。これにより、現時点でも既に蓄積出来ているものの隠れた内実となっている、組織運営に関わる見識と能力のピラミッド構成を外形として顕在化させ、周知に努める。

③2015年の和歌山国体でのデモスポ競技化へ向けての手配りを進める。

2013年には和歌山県協会が近畿大会の当番県を勤めることが決定済み。

この役目と両睨みの体制で、スポーツチャンバラを国体でのデモンストレーション競技化することを旨とする。

④合同稽古会は従来のとおり、奇数月の第3土曜日に定例実施する。（次回は3月20日（土））

あまり、義務的には考えず、参加できる役員・会員が任意に参集する方針で臨む。

⑤備品として、用具（面、小太刀、長剣）を少々購入する。

講習会の実施には不可欠な備品であるので、徐々に段階的に充実させる。

⑥3月28日の「孫市祭り」については昨年までと同様に取り組む。

⑦普及と啓発の目的を兼ねて、今年の夏頃からを目途に、紀中地域（白浜町）でのインストラクター講習会・スポーツチャンバラ体験会を実施することについて検討を進める。

※ 有構無構のおしへの事 Σ

従来、耳で音を聞いて全身が動き出すまでは最短で0.1秒はかかる、といわれてきました。＜中略＞また、目で見ても脳が判断し、全身が動き出す人間の平均反応速度の限界は、神経生理学では0.2秒とされています。つまり外部から刺激を受けて、0.2秒のラグがあれば人は自分がその刺激に反応したと自覚できるということです。ところが武蔵は「敵のわきまへぬうちを心に得て、我が身もうごかさず、心も付けず」といっています。これは「心」、すなわちここでは「脳の認識の運動」が起きるよりもはやいタイミングのことに他ならないので、明らかに0.2秒未満で動けと言っていることとなります。神経生理学で一般的に限界といわれる反応速度よりはやく動くことなど可能なのか、と思われるかもしれませんが、これは十分ありうることと私は考えています。そしてそのカギは、またもや身体をゆるめることなのです。

（高岡英夫 著「宮本武蔵は、なぜ強かったのか？」株式会社 講談社 発行 より抜粋）